

川崎市市民ミュージアムの今後のあり方について  
—答申—

2021（令和3）年7月

川崎市文化芸術振興会議

# 目次

はじめに	1
I 答申	2
II 答申に至る考え方	3
1 新たなミュージアムの使命等について	3
(1) 基本的な使命	
(2) めざす姿	
2 めざす姿に向けた取組	4
(1) 「都市川崎の変遷を伝え、市民と未来を共有する」ための取組	
(2) 「人と人をつなぎ、市民とともに成長・発展する」ための取組	
(3) 「文化芸術の発展や向上に貢献し、その魅力を発信する」ための取組	
(4) 「誰もが文化芸術を楽しみ、学び、好奇心を駆りたてられる」ための取組	
3 施設の考え方	6
(1) 現施設について	
(2) 新たな施設について	
4 施設の設置に向けて	7
(1) 事業・展示に関すること	
(2) 施設・設備に関すること	
(3) 地域社会への貢献に関すること	
参考資料	8
I 諮問内容	9
II 委員名簿	11
III あり方部会経過	12
IV 市民アンケート結果	13

## はじめに

川崎市市民ミュージアム（以下「市民ミュージアム」という。）は、1988（昭和63）年11月に「都市と人間」をテーマに開館され、都市の発展過程やそこで生まれ育った文化を見つめるための作品及び資料を収集、展示、調査研究し、博物館と美術館の機能をあわせ持つ複合文化施設として、川崎市の文化芸術施策において重要な役割を担ってきました。

過去には、利用者の大幅な減少や稼働率の低さから、包括外部監査により厳しい指摘を受けたこともありましたが、改革基本計画や新たな取組方針の策定など、市民ミュージアムがめざす姿の実現に向け取り組み、さらに、2017（平成29）年度からは指定管理者制度を導入し、時宜を得た企画や効果的な宣伝広報などの指定管理者ならではの取組の結果、従来に比べ来場者数が大幅に増加し、川崎市の文化施設の中でも大きな存在感を示してきました。

市民ミュージアムは、開館後30数年以上が経過し、雨漏り等の設備の経年劣化に加え、2019（令和元）年に、想定浸水深が引き上げられた洪水ハザードマップへの対応等について川崎市内部で検討を始めた矢先に、同年10月の令和元年東日本台風により施設・設備や収蔵品が被災し、長期の休館を余儀なくされてしまいました。収蔵庫すべてが浸水し、収蔵品約26万点のうち約22万9千点が被災するなどその被害は甚大なものであり、現在も被災収蔵品のレスキューが続いています。

以上のように、経年劣化等への対応や、施設・設備、収蔵品の被災への対応など、市民ミュージアムの今後のあり方を中心に、様々な課題を整理する必要があるとして、2020（令和2）年5月28日、川崎市長から川崎市文化芸術振興会議に対し、「川崎市市民ミュージアムの復旧・復興に向けたあり方等について」の諮問がされました。同年7月28日、博物館分野、美術館分野、まちづくり・建築分野及び文化政策の各分野の有識者で構成される「川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアムあり方検討部会」（以下「あり方検討部会」という。）を設置し、川崎市における博物館、美術館の役割や求められる機能等について、市民アンケートも行いながら、全7回にわたり検討し、その結果を取りまとめましたので、ここに答申します。

昨今、経済社会の大きな変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあって、人々が先行きの見えない不安を抱えています。このような状況の中、文化芸術は人々の健康や社会全体の幸福につながるものとして再認識され、その役割への期待も大きく高まっています。市民ミュージアムは、博物館、美術館機能の融合とともに、市民や、関連する活動団体、川崎市に点在する文化的な資源と連携することで、地域社会に大きく貢献する可能性を持っています。本部会では、市民ミュージアムのこれまでのめざす姿等に基づき活動してきた成果やネットワーク、ノウハウを最大限に活かし、多様な活動を展開することで、これからの川崎市民の生活を心豊かなものにするためにどうしたらよいか、その方向性に焦点を当て、改めてしっかり議論、検討することとしました。

また、あり方検討部会では、毎回活発な議論が交わされ、「I 答申」に記載した内容以外にも多くの貴重な意見や提案が出されました。これらの意見等は、「I 答申」を導くために必要なものであり、その含意もできる限り読み取れるよう網羅的に「II 答申に至る考え方」に付記しています。

川崎市は、本答申のみでなく、あり方検討部会での議論の内容やその背景になる考え方も踏まえた上で具体化に取り組んでいただきたいと思います。

最後に、川崎市の文化芸術の創造拠点として、未来を照らし、市民にとって誇らしく、愛され親しまれるミュージアムが実現されることを心から願っております。

## I 答申

市長からの諮問では、博物館、美術館のそれぞれの機能の整理、検討を求められましたが、博物館と美術館の使命や果たす役割は重なる部分が多く、両機能をあわせ持つことによって大きなシナジー効果が期待できること、さらに市民ミュージアムは、その開館当時から他のミュージアムでは扱われなかった写真、漫画、映像などの分野を取り込み発展させるなど、先駆的かつ先進的な取組が評価されていました。これまでの成果を尊重するとともに、将来の可能性を高く評価し、あり方検討部会としては博物館、美術館を分けて議論するのではなく、分野を融合した「ミュージアム」として検討しました。

今後も社会経済状況や市民ニーズの大きな変化が予測される中で、川崎市にとって新たな市民ミュージアムがどのような使命を果たす施設であるべきなのか、議論の中から浮かび上がったのは、博物館、美術館機能の融合による強みを活かし、市民や地域と有機的に連携することを通じて進化を続け、未来につながるミュージアムです。本答申では、この活動の方向性を「新たなミュージアムの今後のあり方」としてまとめました。そして、市民ミュージアムがどのような活動を誰と行うかによって、必要とされる施設や設備、加えて立地条件も見えてくると考えられます。

市域が広くはなく、市街化率も極めて高い川崎市では、浸水リスクや土砂災害などの災害リスクの少ない地域は限られています。また、新型コロナウイルス感染症等の影響により、財政もこれまでにない厳しい状況が続くと想定されます。こういった立地面、財政面の制約を踏まえながらも、本答申は、「新たなミュージアムの今後のあり方」に沿った具体的な取組の検討を望むものです。

### 新たなミュージアムの今後のあり方（活動）

- 1 時代の変遷とともに変わりゆく都市川崎の歴史と文化を記録し、現在も含めて未来へ継承する
- 2 誰もが心豊かに暮らせる持続可能なまちづくりに向けて、多様な価値を生み出す文化芸術を活用する
- 3 文化芸術を楽しむ、学び、体験できることで、人々の好奇心や探求心を刺激する
- 4 多彩な文化芸術に出会い、様々な創作活動や表現活動ができる環境をつくり、人々の創造性や文化的感性を育む
- 5 年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、生涯を通じた学びの機会を提供し、多様な文化への理解を深める
- 6 文化芸術を通じ、市民や団体、他の文化施設と連携・協働した活動を展開し、多様なつながりを生み出す
- 7 教育機関等との連携などを通じて若い世代が関心を持つ事業を展開するとともに、芸術家の育成や文化芸術活動の支援を行う
- 8 様々な角度から文化芸術を支える人材、さらには、地域社会の担い手となる人材を育成する
- 9 令和元年東日本台風による被災の事実を次代に伝える

### 新たなミュージアムの今後のあり方（施設）

- 1 現施設でのミュージアム機能の再開は行わない
- 2 新たな施設は、浸水の恐れのあるエリアや土砂災害警戒区域等を避けた場所、利便性を考慮した場所で検討する

## II 答申に至る考え方

### 1 新たなミュージアムの使命等について

新たなミュージアムの活動の根幹となる「基本的な使命」と、その使命に基づき、どのようなミュージアムを目指すのかを示した「めざす姿」を、次のとおりまとめました。

#### (1) 基本的な使命

##### ① 都市川崎のあゆみを未来につなぎ、文化芸術の未来を育む

- ・ 時代の変遷とともに変貌する都市川崎の過去を知り、現在を記録し、未来へと引き継いでいく。
- ・ 市民に寄り添う市民のためのミュージアムとして、市民とともに成長・発展していく。
- ・ 市民の創造性や文化的感性を育み、文化芸術の発展につなげる。

##### ② 文化芸術により生み出される多様な価値を活かした地域社会をつくる

- ・ 誰もが文化芸術を楽しみ、学び、体験できる機会を提供し、生き生きと心豊かに暮らせるまちづくりに寄与する。
- ・ 市域の文化芸術の振興により、創造的で持続的なまちづくりに貢献する。
- ・ 文化芸術を通じた人と人との多様なつながりを生み出し、コミュニティの形成と活性化に資する。

#### (2) めざす姿

##### ① 都市川崎の変遷を伝え、市民と未来を共有する

- ・ 市民生活に重きを置いて、過去と現在を将来にわたって引き継ぎ続ける。
- ・ 観賞する人が追体験することで、川崎市の都市化の過程を捉えなおす。
- ・ 多様な人々の営みや市内各地の地域性を市民が再発見・再評価を可能とする。

##### ② 人と人をつなぎ、市民とともに成長・発展する

- ・ 文化芸術を通じ、コミュニティの形成と活性化を図る。
- ・ 市民をはじめ、施設等が培った知識や技術、経験等を次代へ継承する。
- ・ 時代の変遷や社会環境、価値観等の変化に呼応し、成長・発展し続ける。

##### ③ 文化芸術の発展や向上に貢献し、その魅力を発信する

- ・ 歴史文化資産、多彩な文化芸術資源の研究成果を発信する。
- ・ 多彩な文化芸術に触れることで、市民の創造性や文化的感性を育み、市域の文化芸術の魅力を発信する。
- ・ 市民や団体の文化芸術活動の活性化を図り、誰もが文化芸術に触れることができるよう裾野を広げる。

##### ④ 誰もが文化芸術を楽しみ、学び、好奇心を駆りたてられる環境をつくる

- ・ あらゆる人に対して生涯を通じた学びの機会を提供し、文化芸術活動を通じて多様な文化への理解を育む。
- ・ 文化芸術を創造・体験することの楽しさを広く伝え、市民の好奇心や探求心を駆りたてる。

## 2 めざす姿に向けた取組

新たなミュージアムの使命等を達成するため、今後、具体的な博物館事業、美術館事業を検討するうえで、事業の取組を次のとおり整理しました。

### (1) 「都市川崎の変遷を伝え、市民と未来を共有する」ための取組

#### ① 現在の川崎の次代への継承

- ・ 現在の川崎の世相を反映した資料・作品の調査研究に取り組む。
- ・ 時代の変遷とともに変貌し続ける川崎の姿を、被災の経験も含めて記録し、次代に継承する。

#### ② 都市川崎の振返り

- ・ 都市川崎の変遷や、市域の多彩な文化や多様な地域性の魅力を伝える。
- ・ 川崎市とゆかりのある全ての人が、自らの軌跡を発見できる取組を行う。

#### ③ 歴史を知り課題解決意識の醸成

- ・ 地域の歴史や伝統文化のみならず、環境問題など負の側面も含めた都市川崎の歴史を学ぶことにより、現在抱える課題を認識し、より良い未来のためにどのように解決すべきかを考える力を育む。

### (2) 「人と人をつなぎ、市民とともに成長・発展する」ための取組

#### ① コミュニティの形成と活性化

- ・ 文化芸術を通じたコミュニティを形成する環境を整備して多様なつながりを生み出し、発展させていく。

#### ② 知識や技術、経験等の次代への継承

- ・ 知識や技術、経験のほか、地域の発展や変遷、人々の生活や文化などの地域資源を次代に継承するために、市民や団体とのネットワークを形成し、連携・協働した活動を行う。

#### ③ 持続的に発展する施設づくり

- ・ 時代や社会環境の変化により生まれる新たな表現手法や作品を取り扱うなど、新たな価値や魅力を生み出す。
- ・ 社会的障壁を取り払い、市民一人ひとりが尊重され、能力を発揮できる取組を行う。

### (3) 「文化芸術の発展や向上に貢献し、その魅力を発信する」ための取組

#### ① 調査研究成果の市民への還元

- ・ 川崎の成り立ちを物語る考古、歴史、民俗資料や川崎市ゆかりの作家の作品等の調査研究に取り組み、その成果を市民に還元する。

#### ② 文化芸術活動の振興

- ・ 資料・作品の展示だけではなく、様々な創作活動や表現活動の場としての役割を担う。
- ・ 先進の環境・情報技術の積極的な活用や誰もがアクセス可能な環境を整備する。

### ③ 川崎市域全体の文化芸術の魅力の増進

- ・ 地域の活性化のために、市内の文化施設や活動団体等と連携を図る。

## (4) 「誰もが文化芸術を楽しみ、学び、好奇心を駆りたてられる環境をつくる」ための取組

### ① 創造性と多様性を有する文化芸術の普及

- ・ 本市ゆかりの芸術家の育成及び文化芸術活動の支援を行う。
- ・ 誰もが文化芸術を身近に感じ、体験・体感することで、自由で多彩なアイデアや創作活動や表現活動が生まれる機会を提供する。

### ② 文化芸術を支える人材の育成

- ・ 教育機関と連携し、活動や研究の場を提供するとともに、文化芸術を様々な角度から支える人材を育成する。
- ・ 次代の社会を担う子どもや若者の好奇心を刺激するために、若い世代が関心を持ちやすい、時代の潮流に乗ったテーマを取り扱うなど、幅広い文化芸術活動を行う。

### 3 施設の考え方

現施設の被害状況や復旧に係る費用、立地場所等の課題等を共有し、次のとおり整理しました。

#### (1) 現施設について

現施設を復旧するには概算で約25億8千万円となる多額の費用がかかる見込みであることに加え、現施設が設置されている場所は、2018（平成30）年に改定された洪水ハザードマップ上で想定浸水深が5～10mとなっており、現施設の2階まで浸水する恐れがあります。そのため、地階にある収蔵庫等を3階に整備する必要があるものの、構造耐力上3階への整備が困難なことなどの課題が確認されました。

よって、現施設でのミュージアム機能の再開は行わず、できる限り被災リスクの少ない場所での再建を行うことが必要であるとあり方検討部会としては整理しました。

#### (2) 新たな施設について

新たな施設の候補地は決まっていない状況ですが、再建にあたり何よりも優先すべきことは、市民の貴重な財産であり、未来に継承すべき収蔵品を被災させないことと考えます。

そのため、新たな施設は、浸水の恐れのあるエリアや土砂災害警戒区域等を避けた立地に建設することが望まれます。また、展示室と収蔵庫は、運営面から見て同じ施設内に整備することが望ましいですが、施設の規模や収蔵庫の狭隘化等の課題に対応するために別置することは妨げません。

施設の規模等については、今後検討される事業計画等の内容を踏まえながら、「答申」に基づく活動が可能な施設整備を検討し、どのような活動を誰が行うかを考え、敷地や施設を最大限活用する必要があると考えます。

その際、市民アンケートでも多くの回答があった公共交通等の利便性、緑豊かで開放感がある屋外環境なども可能な範囲で考慮する必要があるものと考えます。



#### 4 施設の設置に向けて

新たな施設の設置に向けて、考慮すべき項目を次のとおり示します。

##### (1) 事業・展示に関すること

- ・ 今回の台風被害を風化させないよう、収蔵品等が甚大な被害を受けた事実を記録し、継承する取組を行うとともに、新たな施設が整備される間も、修復過程や状況を市民に公開・発信する必要があると考えます。
- ・ 川崎市全体の文化芸術施策の推進に資するため、市内の他の文化施設との連携や歴史文化資源を活用した取組が望まれます。
- ・ 被災収蔵品の取扱やアーカイブズ学<sup>※</sup>を踏まえた新たな台帳整備により、適切な収蔵品管理を行うほか、活動内容にふさわしい作品、資料等を収集していくことが必要と考えます。

##### (2) 施設・設備に関すること

- ・ 諸室構成や設備の検討にあたっては、市民や関連する団体、博物館、美術館の現場で働く専門家を含め、多様な人たちの意見をいただき、インクルーシブなデザインの考え方を取り入れることが大切であると考えます。
- ・ 新たな施設が市民等の活動の場や、様々な創作活動や表現活動に対応できる場になる必要があると考えます。

##### (3) 地域社会への貢献に関すること

- ・ 川崎市は、誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくりを目指す「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」や、全ての市民が不当な差別を受けることなく、個人として尊重され、生き生きと暮らすことができる人権尊重のまちづくりを推進していくための「差別のない人権尊重のまちづくり条例」の制定、他にも「地域包括ケアシステム推進ビジョン」やコミュニティ施策の推進など、多様性と社会的包摂の進んだまちづくりに取り組んでいます。新たなミュージアムにおいても、こうした川崎市らしい施策を踏まえ、地域社会への貢献を念頭に置いた取組が必要と考えます。

---

※ アーカイブズ学 … アーカイブズとは、ある法人あるいは個人が、その活動の過程で作成、受領し、さらに組織固有の必要のために、それを形成させる主体あるいは後継者によって保管されるか、あるいはアーカイブズ上の価値ゆえに、適正な資料保管組織に移管される資料の総体を指し、アーカイブズ学とは、これらを適正に管理するとともに、利活用を可能にするための理論や実践的な方法論について研究する学問のことを言う。